

わよ。」と言われました。その言葉通りモンサンミッシェル内ではたくさんの日本人観光客を見ました。また設置されている看板には日本語が書かれているものもあり、片言の日本語で商品紹介をしている店員さんもいました。

日本人ガイドさんに説明してもらいながらモンサンミッシェル内を観光しましたが人がとても多く、時間も限られているためあまりじっくり見るができなかったので、翌日1人でもう一度散策することにしました。日曜日のお昼でしたが、なんと教会で祭儀式が行われ始めパイプオルガンの演奏や賛美歌などを聞くことができました。モンサンミッシェルの修道院で聞く賛美歌はとても荘厳な感じがして心が浄化されるようでした。まさかモンサンミッシェルで祭儀式を見ることができるとは思わなかったので



祭儀式の様子

本当に感動しました。この修道院は海拔 80m の場所に建っており、その隣の西のテラスからはモンサンミッシェルの周りを一望できます。また海の中に建っているため冷たい海風が吹いており、たくさんのウミネコも飛んでいました。

バスガイドさんによると、モンサンミッシェルには部屋の名前や使用用途がわからないため未公開の部屋が7つ、8つあるそうです。今後も修復と研究が進めば新しく公開される部屋も出てくるかもしれません。魅力たっぷりのモンサンミッシェルにぜひ皆さんも行ってみてください！

《モンサンミッシェルの隣に鳥居…?》

モンサンミッシェルの前になぜか赤い鳥居が建てられていました。その鳥居には 10 周年と書いてあるだけで何のことかよくわかりません。島の中に入ってみるとモンサンミッシェルと広島県の厳島神社が描かれたのぼりや掲示物が飾ってあります。なんの繋がりがあるのか調べてみたところ、広島県廿日市との観光友好都市提携からちょうど 10 周年の今年、フランスの市長さんが知人に頼んでこの鳥居を作ってもらったものようです。9 月下旬までの期間限定コラボとのことで偶然にもこの不思議なコラボレーションを見ることができてよかったです。



モンサンミッシェルにあった鳥居

《モンサンミッシェルの総製作費は?》

実は、モンサンミッシェルの建設にはほとんどお金がかかっていないそうです。なぜならモンサンミッシェルはみんなの力（ボランティア）で作上げた教会だからです。石工さんが石を切りくずし、漁師さんが船で運び、その材料を使って大工さんが建めました。その人たちの食糧や寝床は近くの村の人が「モンサンミッシェルのためなら」と無償で提供したようです。（例外として王様がモンサンミッシェルにお参りした際に感謝の気持ちを込めて当時お金の代わりに使っていた銀を奉納したようです。）

現在モンサンミッシェルには1日に8千～1万人が来場しており、修復費用を考えなければ黒字だそうです。その修復費用は今も6億€（日本円で約712億円）足りないようで、修復途中のため専門家でも未だ入れない場所もあるようです。

【ロワール渓谷の3つのお城巡り】

ロワール渓谷には21ものお城が点在しており、世界遺産に認定されています。お城とお城の間隔はだいたい20～30km離れているため、移動に時間がかかり、急いで見ても1日4つが限界のようです。なぜ、ロワール川の周りにお城がたくさんあるかというと、北フランスの人は「あそこが暖かくて快適らしい」南フランスの人は「あそこが涼しくて快適らしい」といううわさが広がったためらしいです。

フランスのお城のタイプは日本と違い2つに分けられます。戦うためのお城と綺麗なものを愛でるためのお城です。前者のお城が建てられた時代にはまだ国境が決まっていなかったため、いつでも戦えるように準備されていました。しかし、後者のお城が建てられた時代にはすでに国境も決まっていたため貴族や王族などお金持ちの人の為の住まいや狩りをするときの別荘として建てら



シュノンソー城



シャンボール城とその庭

